

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義

社会基礎学Ⅰ

「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成

科目情報 総合科目（学士基盤科目）

開設学期・曜日時限 春 BC 土曜日集中 詳細は P8-P9 参照

科目責任者 岡本 直久、土井 隆義
坪内 孝司、松井 圭介

本科目は、一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）と本学との連携協定に基づき、平成 23 年度から開設されている科目です。産業界と連携した科目で、これほどの規模の科目は他大学にも類をみない、本学が全国に先駆けて開始した取り組みです。

JAPIC について

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）は、1979 年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叢智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC 会長
進藤 孝生

SHINDO Kosei
日本製鉄（株） 代表取締役

開設趣旨

筑波大学と JAPIC との連携協定に基づき、本科目を開設します。

世界では、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、AI や DX 等、先端技術の進歩やビジネスモデルの変革などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国同士は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題・国家間の安全保障や予期せぬ感染症の流布など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。

この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、この講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学を探究し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。

- ①「グローバル化と地域の日本のあり方」、②「政治・政策」、③「安全保障・憲法」、④「経済・産業」、⑤「環境・資源・エネルギー」、⑥「世界／アジア」（順不同）

また、大学院学生を対象に、産業界のトップリーダーによるアドバンスト・ディスカッションコースを開設します。最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉え、議論を行い、深く考察していきます。

学生に期待すること

「社会基礎学」というこの科目名からの印象は、例えば社会系の講義だろう、自分にはあまり関係がなさそうだな、というものではないでしょうか？ しかし、この講義に出席してみると、その印象は徐々に変わり、講義の終盤には、自分の専門分野の社会を通してのかかわりがおぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。学士課程の当初に受講する総合科目「学問への誘い」では、各自の専門分野への理解を深めるとともに、そこから広がる様々な分野にも複眼的かつ俯瞰的な眼を養うことの重要性を説いています。「社会基礎学」は、社会の側から様々な学問への気づきを喚起しようとしています。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながらお話しいただきます。講義のキーワードである「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」、について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創成の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。

世界に挑む産業界・官界 トップリーダーによる 連続リレー講義

(令和6年度)



春BC 【総合科目(学士基盤科目)】社会基礎学Ⅰ-「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成

第1回

6/1 [土] 13:30 ~ 16:30

導入講義I

通常
講義

筑波大学における
グローバル人材育成方針

筑波大学 教授
大学執行役員(教育デザイン担当)

坪内 孝司

導入講義II

通常
講義

連続リレー講義の意味・意義と
狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か？
グローバル化の中で日本は？

グローバル化とは何か？日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。

第2部

学生は何を学び、
何を身に付けるべきか？

グローバル人材とは何か？産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネリスト

石破茂衆議院議員
政策担当秘書

吉村 麻央

パネリスト

国土交通省
総合政策局長

長橋 和久

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト
産業協議会(JAPIC) 常務理事

林田 康洋

コーディネーター

筑波大学 教授
大学執行役員(教育デザイン担当)

坪内 孝司

第2回

6/8 [土] 13:30 ~ 16:30

通常
講義

組織におけるダイバーシティと
人財活用

株式会社日本政策投資銀行
常務執行役員

原田 文代

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性はますます高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

通常
講義

スポーツチームのマネジメント
～日本男子バレーを例に～

福井工業大学
教授

中垣内 祐一

東京五輪に向けて、世界ライティング14位であった日本男子バレーを、どう再興していったかについて実体験を通じた経験をマネジメント面から語る。選手として、指導者としての経験から、日本バレー界が抱えていた問題点や、これからのバレー界の希望について展望する。

第3回		6/15 〔土〕 13:30～16:30	
通常講義	企業経営の現状・課題と戦略	通常講義	未来の国土づくりを担う皆さんへ
日本製鉄株式会社 執行役員 人事労政部長 三好 忠満		内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに 科学技術イノベーション政策その他特命事項担当) 森 昌文	
本講義では、日本製鉄の過去・未来の取り組みを通じて、日本のものづくり産業が目指す成長戦略について考察する。／①「鉄」という素材の多様な特性・魅力／②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか／③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか		我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況と対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。	

第4回		6/22 〔土〕 13:30～16:30	
通常講義	日本の安全保障環境と防衛政策	通常講義	グローバル化と戦争
防衛省 政策立案総括審議官 青木 健至		一般社団法人 共同通信社 常務理事 沢井 俊光	
わが国を取り巻く安全保障環境は急激に不確実性を増し、防衛省・自衛隊が担う役割や活動の場面も宇宙・サイバー・電磁波まで広がりました。北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、中国による一方的な現状変更の試みの執拗な継続、新型コロナウイルス感染症に対する活動、大規模な自然災害に対する災害派遣活動、米国をはじめとする諸外国との間における防衛協力・交流など、時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。		20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。「反グローバル主義」を掲げたトランプ前大統領の下で進んだ「米中新冷戦」が本格戦争に発展する恐れはあるのか。戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。	

第5回		7/6 〔土〕 13:30～16:30	
通常講義	地域資本を活用した地域経営	通常講義	日本産業のありたき姿について
パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営企画部 チーフプロジェクトマネージャー 石崎 晶子		株式会社みずほ銀行 執行理事 産業調査部長 定岡 祐二	
人口減少・少子高齢化が進む地方では、様々な地域活性化の取り組みがなされている。その取り組み効果を最大化する着眼点として、地域資本の活用と、地域経済循環が肝要である。地域には多様な人的資本、自然資本、社会資本がある。それらをどのように組み合わせるか、外部の力を使ってどう効果を最大化させるか、地域事例を考察しながら、グローバルの中で生き残れる地域の未来のあり方について、皆さんと議論したい。		日本は今、不安定な世界(米中拮抗、覇権国不在)、人口減少・高齢化、サステナビリティ実現、テクノロジー変化といった大きな潮流の変化の中に身を置いている。本講義では、日本産業を取り巻く環境の変化と、それを踏まえた日本産業のありたき姿について考察する。	

期末試験	7/13 〔土〕 13:30～16:10
-------------	-----------------------------

